

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[44]歳、勤続年数[26]年、現場経験年数[23]年、階級[消防士長]、同様の活動 [初めて]、任務 [その他：副隊長]
○当事者B	年齢[19]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士]、同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[66]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

.....

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	C	2階の屋根のトタンがはがれ、飛びそうなため屋根の上で作業していた。	
経過2	AとBは	ロープを携行し防火衣を着装して屋根の上に上がった。	
経過3	AはBに対して	携行したロープで屋根上部に支点を取り確保を取るよう命令した。	
経過4	AはCに対して	危険だから作業を止め、下に降りるよう依頼したが断られた。	
経過5	AとBとCは	突然、突風が吹き3名は屋根共々浮き上がりCがAの方に倒れてきた。	
経過6	Aは	倒れてきたCを掴み、二人で屋根に伏せ確保ロープに?まり身体が落ちない様にし風が治まるのを待った。	
経過7	Bは	自己確保ロープに?まり身体を伏せて風が治まるのを待っていた。	
経過8	Cは	風が治まった時点で下に降りた。	
経過9	AとBは	はがれたトタンをはがし、地上に降ろして作業を終了してその現場から引揚げた。	
経過10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。集中力、注意力があった。足元の安全が確保できていた。他隊(員)との連携活動がうまくいった。その他：速やかに自己確保ロープの作成が出来た事

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭い場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が濡れたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

し. その他の理由があった。

はい：防火衣は重く、高所の滑りやすい所では活動し辛い、救助隊は防火衣を着ていなかった。
